論文の内容の要旨

氏名：成　瀬　才　源
専攻分野の名称：博士（医学）
論文題名：小児糖尿病における網膜症発症に関連する因子の検討

近年、糖尿病の眼底所見と網膜症発症に関連する因子との関係についての報告は増加しているが、小児糖尿病における網膜症発症に関連する因子の報告は少ない。特に、小児１型糖尿病および小児２型糖尿病におけるそれぞれの特徴や差異についての報告は検索した限り見当たらない。本研究では小児１型糖尿病および小児２型糖尿病における網膜症発症に関連する因子について、詳細に検討した。

対象は駿河台日本大学病院（現日本大学病院）眼科と小児科において管理中の糖尿病患者 122 例、うち小児１型糖尿病患者 86 例（男性 39 例、女性 47 例）と小児２型糖尿病患者 36 例（男性 11 例、女性 25 例）である。全経過中の網膜症発症率と性差を求めた。ついで網膜症発症率を平均 HbA1c 8.0%以上と 8.0%未満の２群に分け、Kaplan-Meier 法を用いて検討を行った。さらに網膜症発症に関連すると思われる因子を生存分析における多変量解析手法である Cox 比例ハザードモデルを用いて解析した。

小児１型糖尿病において全経過中の網膜症発症は 86 例中 21 例に認められた。小児２型糖尿病では 36 例中 10 例に網膜症発症が認められ、女性のみに発症していた（男性０例、女性 10 例）。

小児１型糖尿病では、平均 HbA1c8.0%以上のものは 8.0%未満に比べ、網膜症発症までの期間が有意に短かった。小児２型糖尿病では、経過中の平均 HbA1c8.0%以上の症例は男性１例（10%）、女性 10 例(40%)と女性に多い結果であり、平均 HbA1c8.0%以上のものは 8.0%未満に比べ、網膜症発症までの期間が有意に短かかった。

また、網膜症発症に関連する因子の検討では、小児１型糖尿病の網膜症発症には平均 HbA1c 値と糖尿病診断時期が有意に影響し、小児２型糖尿病の網膜症発症には平均 HbA1c 値のみが有意に影響している結果であった。

小児糖尿病における網膜症発症に関連する因子として１型糖尿病と２型糖尿病ともに、経過中の平均 HbA1c 値が 8.0%以上と高いほど網膜症発症のリスクは高かった。
小児１型糖尿病では思春期発病、小児２型糖尿病では女性であることが網膜症発症に影響した。日常診療では、平均 HbA1c8.0%を血糖コントロール目標とし、１型では思春期発病である場合２型では女性である場合には特に注意を払い、診察の間隔を短くするなどより厳重な管理が必要であると考えた。